公益社団法人日本薬剤学会　2013 年度事業報告

（2013 年 4 月 1 日から 2014 年 3 月 31 日まで）

公益目的事業 1「薬剤学及び関連諸領域に関する情報提供及び啓発，研究の振興，調査研究並びに評価により，薬剤学の進歩とその成果の利用普及を図る事業」

まえがき

今年度は公益社団法人としての責務を遂行するに当たり，上掲の「公益目的事業 1」を着実に推進するための事業計画を立案し，理事会を中心としたガバナンス体制の下，着実に事業の運用を図った．また，健全な財務基盤の確保も円滑な事業運営の課題であるが，事業ごとに精査を行い，こちらも適正運用を達成することができた．

会長

1　APSTJ2025WG 事業

理事会主導により，日本薬剤学会のこれからのあり方“APSTJ 2025”を検討・策定するための WG を立ち上げた．今年度はマスタープラン WG と合同でキックオフミーティングを開催した．

2　マスタープラン WG 事業

日本学術会議が大規模研究のために策定しているマスタープラン 2014 に日本薬剤学会から下記の 2 課題を日本学術会議へ提案し，いずれも「新規かつ学術上優れたものと評価された「学術大型研究計画（区分 I）」」として採択された．

第一課題：ナノ医療に基づいた革新的医薬品の創出拠点の形成

第二課題:バイオ医薬の次世代型投与システムの開発とその早期実用化を目指した開発基盤拠点形成

APSTJ2025WG 事業と合同で実施した以下のシンポジウムにおいて，メインテーマとしてマスタープラン 2014 を取り上げた結果，FG 間のコミュニケーションが促進するとともに，日本薬剤学会を中心に本 2 課題を提案したことが広く会員内外に理解され, 今後の展開に大きな示唆と支援を得ることができた.

バイオとナノが拓く医療イノベーション

2013 年 12 月 13 日　　UDX Gallery NEXT 秋葉原

副会長総務担当理事

1.1	学会賞	受賞者　杉林堅次
1.2	功績賞	受賞者　藤岡敬治
1.3	奨励賞	受賞者　片岡　誠，鈴木　亮
1.4	タケル&アヤ・ヒグチ記念栄誉講演賞	---当期設定なし---
1.5	タケル&アヤ・ヒグチ記念賞	受賞者　際田弘志
1.6	永井記念国際女性科学者賞	受賞者　Dominique Duchéne
1.7	創剤特別賞	受賞者なし
1.8	優秀論文賞	受賞者　Y. Ikeda，K. Higashi， K. Moribe，K. Yamamoto 武内博幸，石田真大，浦野英俊，杉林堅次

1.9　製剤の達人称号　受賞者　村主教行，沖本和人，迫　和博，久保田清
石川英司，横田祥士，山下親正，岡本　亨

1.10　国際フェロー称号　受賞者　Dominique Duchéne

1.11　「薬と健康の週間」懸賞論文　第 1 席　前田梨沙

2.1　旭化成創剤開発技術賞　受賞者　中川弘司、釜田　信、前田　仁

2.2　旭化成創剤研究奨励賞　受賞者　森部久仁一

渉外担当理事

1　学生主催シンポジウム事業

薬剤学に関わる学生の研究室・大学間を超えた活発な交流と，口演能力や講演会運営経験を涵養することを趣旨として，年会において学生主催シンポジウム SNPEE2013 を開催した.

「Pharm. Café　－おもしろき　薬剤学を　おもしろく－」

2013 年 5 月 24 日　愛知県産業労働センター（WINC 愛知）

2　広報委員会事業

学会ウェブサイトの企画運営等を通して本学会の活動の広報を行うとともに, 会員の拡大のために関連諸領域の研究者へ本学会の活動をアピールした．また，公益社団法人化に伴う，ロゴの改訂，HP 改訂，学会誌表紙デザインの改訂を実行した．さらに，2014 年度からの広報充実に向けてニュースメールの発信を決定した.

3　医薬品の包装と情報分科会事業

薬剤学を支える包装・情報に関し，専門の研究者・技術者が協議し，本学会会員に情報発信を行うことを目的に，年会において以下のとおり「医薬品包装シンポジウム」を開催した.

「創薬への貢献を目指して　～医薬品メーカー技術者による包装設計事例～」

2013 年 5 月 25 日　愛知県産業労働センター（WINC あいち）

4　教育分科会事業

薬剤学に関わる教育問題について，専門委員が協議して提言を行う他，教育資料の企画，年会において以下のとおり薬学教育シンポジウムを開催した.

「薬学教育の国際化」

2013 年 5 月 25 日　愛知県産業労働センター（WINC あいち）

国際連携担当理事

1　英語セミナー事業

国際共通言語である英語での討議能力を養うため，訪日した海外研究者等を講師として招聘し，講義・ディスカッションの全てを英語で行う Global Education Seminar を東西地区で企画した.

1.1　第 1 回東地区英語セミナー

2014 年 3 月 14 日　慶應義塾大学

1.2　第 1 回西地区英語セミナー

2013 年 8 月 21 日　京都大学

1.3　東西合同グローバル GE セミナー・ワークショップ

2013 年 5 月 25 日　愛知県産業労働センター（WINC あいち）

2　国際学会等協力事業

- FIP（国際薬学連合）

FIP の Predominantly Scientific Member Organization として，Council Meeting で重要事項を審議する他，Section/SIG にメンバーを多数派遣する等，BPS の諸活動に積極的に参画した.

- AFPS（アジア薬科学連合）

AFPS の Member Organization として，Executive Committee に役員を派遣する等，アジア地域における薬科学研究の発展に寄与した.

- 第 5 回アジア・アーデン・カンファレンス

中国，韓国に次いで日本で初めて開催されるアジアでのアーデン・カンファレンスを企画運営した.

「Pharmaceutical Materials Science and Engineering -Characterization and Application」

2013 年 8 月 5 日-6 日　　愛知学院大学 楠元キャンパス

機関誌担当理事

1　「薬剤学」編集委員会事業

「薬剤学」誌の企画編集と「薬と健康の週間」懸賞論文を選考した．また，「薬剤学」の引用率向上を目的に J-STAGE への登載申請を実施した.

2　投稿論文審査委員会事業

「薬剤学」誌への投稿論文を審査した.

3　学会誌出版事業

3.1　機関誌「薬剤学」

「薬剤学」編集委員会の担当する依頼原稿と投稿論文審査委員会の審査による一般論文で構成される「薬剤学」誌を以下のとおり発行した.

Vol. 73 No. 3　2013 年 5 月 1 日発行
Vol. 73 No. 4　2013 年 7 月 1 日発行
Vol. 73 No. 5　2013 年 9 月 1 日発行
Vol. 73 No. 6　2013 年 11 月 1 日発行
Vol. 74 No. 1　2014 年 1 月 1 日発行
Vol. 74 No. 2　2014 年 3 月 1 日発行

英文論文についても積極的な投稿促進を図った.

3.2　公式欧文誌「Journal of Drug Delivery Science and Technology」

JDDST の国内購読者は僅少であり薬剤学会の公式英文誌とは言い難い状況にあるため, 理事会にて改善策を検討中.

書籍担当理事

1　出版委員会事業

今年度は本学会の事業に関する下記の書籍の編集に注力した.

1.1　薬剤学実験マニュアル（南江堂）

日本薬剤学会出版委員会の編集により全 2 巻（物理薬剤学 23 名，生物薬剤学 33 名の執筆者）を 2014 年 4 月 5 日に発行することとなった.

I 薬剤学実験法　必携マニュアル　Pharmaceutical Scientist のために
物理薬剤学(345 ページ)
II 薬剤学実験法　必携マニュアル　Pharmaceutical Scientist のために
生物薬剤学(423 ページ)

1.2　技術伝承講習会 10 回記念出版書（じほう社）

技術伝承実行委員会の編集による「製剤の達人による製剤技術の伝承」全 2 巻（上巻 26 名，下巻 21 名の執筆者）を 2013 年 5 月 20 日に発行した.

上巻　経口投与製剤の製剤設計と製造法（369 ページ）
下巻　非経口投与製剤の製剤設計と製造法（315 ページ）

技術担当理事

1　製剤技術伝承講習会事業

製薬企業各社でのアウトソーシングの加速により, 滅失が懸念されているわが国の製剤技術を次代の製剤研究者・技術者に継承するため, 座学・実習の講習会を企画運営した. 今年度は以下のとおり開催した.

1.1　第 13 回シミック製剤技術アカデミー／製剤技術伝承講習会
「固形製剤の製剤設計と製造法」
2013 年 6 月 20 日-7 月 26 日　名城大学名駅サテライト

1.2　第 5 回製剤技術伝承実習講習会
「PAT に関する実習講習会-NIR とテラヘルツ分光の基礎-」
2013 年 9 月 18-19 日　東邦大学薬学部

1.3　第 6 回製剤技術伝承実習講習会
「口腔内崩壊錠を製造して評価しよう –その 2-」
2013 年 9 月 26-27 日　フロイント産業（株）技術開発研究所

1.4　第 14 回シミック製剤技術アカデミー／製剤技術伝承講習会
「非経口製剤の製剤設計と製造法」
2014 年 1 月 23 日 -2 月 14 日　名城大学名駅サテライト

2　製剤技師認定事業

医薬品メーカー等において製剤に携わる研究･開発･製造担当者で, 日常業務の遂行上必要とされる共通の基礎的かつ専門的事項及び法規･制度の学識を修得している者を「製剤技師」として認定する．今年度も本認定試験の社会的な認知度とステータスの向上を図るため，様々な活動を展開した．今年度の開催と認定者は以下のとおり.

2.1　第 4 回製剤技師認定試験
2013 年 10 月 26 日　慶應義塾大学芝共立キャンパス／神戸薬科大学

3.2　第 4 回製剤技師認定者
飯田　桂，伊藤　雄，稲田光昭，小杉　敦，齋藤裕史，澤　嗣郎，塩田龍吾，島井紀枝，
鈴木明広，竹村厚志，谷垣浩晃，谷口　豊，堤　雄洋，中尾健作，長尾達郎，中村慶吾，
平澤　亙，松田隆志，宮﨑義一，森岡　誠，由良隆行，芳岡博史，吉田光一，米澤靖史

製剤セミナー担当理事

1　製剤セミナー事業

大学・製薬企業・医療機関などにおいて製剤技術に関わる研究者が一堂に集い，サイエンスとテクノロジーの観点のみならず刻々と変化する時代のニーズも合わせて議論する合宿形式の討論会「製剤セミナー」を以下の通り開催した.

1.1　第 38 回製剤セミナー

「新薬開発のドライビングフォースとなる創剤―公益社団法人日本薬剤学会の役割―」

2013 年 7 月 18-19 日　　ヤマハリゾートつま恋

国際標準医薬分業推進事業担当理事

1　国際標準医薬分業推進事業

国際標準的な医薬分業（完全分業あるいは強制分業）への移行について，必要な情報を整理しつつ，実施に向けての戦略を立案し，関連団体と連携しながら行政への働きかけを推進した．今年度も 9 月 25 日の World Pharmacists Day に合わせて，国内外の講師を招聘して公開市民講演会を開催した.

FG 担当理事（特命担当理事）

1　FG 統括委員会事業

共通の研究目的等による分野横断的なユニットである各フォーカスグループ（FG）を統括する委員会として，事業・予算の管理を行った.

- 経口吸収 FG

経口吸収に関わる生体膜機能，吸収機構，体内動態，製剤化や臨床開発に至るまでの幅広い問題を統合し，新たな経口吸収研究を開拓するため，以下のとおり合宿討論会、シンポジウムを開催した.

・第 4 回経口吸収 FG 合宿討論会

2013 年 8 月 19～20 日　　KKR 京都くに荘

・シンポジウム

難溶性薬物の吸収を改善する特殊製剤の開発を加速するには何が必要か？

2014 年 3 月 28 日　　ホテル日航熊本（日本薬学会第 134 年会時に開催）

- がん治療 FG

新規製剤開発，製剤技術のみならず，臨床現場での抗がん剤の適正使用までを包括した新しい治療戦略の確立を目指し，以下の日本医療薬学会年会においてジョイントシンポジウムを開催した.

第 23 回日本医療薬学会（後援）

がん薬物療法を“再考”しよう！～製剤的工夫からバイオシミラーの開発まで～

2013 年 9 月 21 日　　仙台国際センター

- 経皮投与製剤 FG

様々な分野の研究者を集め，経皮投与製剤の理論と実際を検討し，経皮投与製剤研究のさらなる活性化を図り，以下のとおりシンポジウムを開催した.

第 5 回経皮投与製剤 FG シンポジウム

2013 年 11 月 28 日　　きゅりあん

- 経肺投与製剤 FG

大学・企業の製剤研究者，投与デバイス開発者，医療従事者の連携を図り，患者及び医療従事者にとって使いやすい経肺投与製剤及び吸入療法の開発を目指した.

- 院内製剤・調剤 FG

医療サイドからの臨床情報を発信するとともに，大学・製薬企業から院内製剤などへの技術指導を行い，市販化に向けた共同研究への展開を視野にした議論の場を提供した.

- 遺伝子・細胞製剤 FG

今後の活動方針についてメール会議・会議を行い，対象から細胞製剤を省くこと，またこれまでも対象としていた核酸医薬をより積極的に取り上げて議論することを決定した. 次年度以降については「核酸・遺伝子医薬 FG」と FG の名称の変更についてもメンバー間で合意した.

- 薬物相互作用 FG

各臓器における薬物相互作用を定量的に捉えて *in vitro* でのスクリーニング系・評価法を研究し，臨床で有意義な薬物相互作用の予測を推進するための基盤の確立を目指し，活動を行った.

- 医療 ZD と調剤 FG

薬剤師が医師処方箋のレビューを含めた真の調剤を実践し, そのリスク管理により医療における Zero Defect が達成されるよう，医薬分立を基盤としたシステム・教育の構築を目指し，以下のとおり講演会の開催に協力した.

日本薬剤学会公開市民講演会「国際標準医薬分業を推進する国際シンポジウム」

メインテーマ：二人の薬学メンターが考えるこれからの薬学と薬剤師像

2013 年 9 月 25 日　　アルカディア市ヶ谷

- DDS 製剤臨床応用 FG

DDS 製剤の品質，有効性，安全性の評価，あるいは評価手法に関する調査研究，情報交換等により DDS 製剤の開発環境の向上を図り，臨床応用の実現のための橋渡し研究を推進するため，以下のとおり年会でのラウンドテーブルセッション，及び合宿討論会を実施した.

・日本薬剤学会第 28 年会　ラウンドテーブルセッション

DDS 技術の可能性とその価値具現化への課題』

2013 年 5 月 24 日　　愛知県産業労働センター（WINC あいち）

・第 3 回 DDS 製剤臨床応用 FG 合宿討論会

2013 年 11 月 1-2 日　　帝京大学セミナーハウス

- PVM　FG

未充足の臨床ニーズがあるにも関わらず、経済的なメリットや規制面での制約、情報ネットワークの未整備などによって現在十分な取り組みが行われていない小児を対象とした製剤開発について，企業製剤研究者を対象に患者さんの保護者（横幕真紀様）と医療現場の先生（中村秀文先生(国立成育医療研究センター)に現状と課題を紹介していただき, 共有する研究会を開催した.

第 1 回 PVM 研究会＆意見交換会

2014 年 2 月 10 日　　タワーホール船堀会議室

年会長

1　年会事業

本学会最大の学術集会「年会」の企画運営を行う．年会では，口頭またはポスターによる研究発表，特別講演，各種受賞講演，各種シンポジウム，ランチョンセミナー，企業展示会の他，一般市民を対象とした公開市民講演会等の多種多様なプログラムを設定し，定時総会もこの会期中に併催した．また，昨年に引き続きラウンドテーブルセッションを取り入れ，活発な討論を行った．今期の開催期間およびメインテーマは以下のとおりであった．

1.1　第 28 年会

「薬剤学，健康への貢献」

2013 年 5 月 23-25 日　　愛知県産業労働センター（WINC あいち）

1.2　2013 年度公開市民講演会

「セルフメディケーションの将来展望」

「予測の科学：IT 創薬と放射線の健康への影響」

2013 年 5 月 25 日　　愛知県産業労働センター（WINC あいち）

学会運営

1　理事会

学会の業務執行の決定，理事の職務執行の監督等を行う機関として，法人のガバナンスを担う中心的な機能を果たすべく，以下のとおり理事会を開催した．

第 1 回理事会　　2013 年 4 月 9 日

第 2 回理事会　　2013 年 5 月 22 日

第 3 回理事会　　2013 年 10 月 31 日

第 4 回理事会　　2014 年 2 月 7 日

2　評議員会および総会

正会員で構成される学会の最高の決議機関である総会，また，この総会に上程される全ての議案について審議を行う機関である評議員会を以下のとおり開催した．

2.1　評議員会　　2013 年 5 月 24 日　　愛知県産業労働センター（WINC あいち）

2.2　定時総会　　2013 年 5 月 24 日　　愛知県産業労働センター（WINC あいち）

以上

（参考）事業別収支（損益ベース）一覧
2013年4月1日から2014年3月31日まで

公益社団法人日本薬剤学会　（単位:円）

事業名	経常収益計	経常費用計	当期経常増減額	備考
公益目的事業会計（公1）				
APSTJ2025推進事業	205,000	1,613,580	−1,408,580	
マスタープランWG事業	0	0	0	
学会賞等表彰事業	823,999	2,396,170	−1,572,171	
創剤開発・研究賞表彰事業	1,500,000	1,233,656	266,344	
広報委員会事業	0	185,200	−185,200	
医薬品の包装と情報分科会事業	0	156,000	−156,000	
教育分科会事業	0	59,440	−59,440	
学生シンポジウム事業	0	88,619	−88,619	
国際学会等協力事業	7,468,847	9,105,215	−1,636,368	
英語セミナー事業	98,000	394,388	−296,388	
機関誌出版事業	1,753,955	9,506,479	−7,752,524	
「薬剤学」編集委員会事業	68,000	339,236	−271,236	
投稿論文審査委員会事業	0	0	0	
出版委員会事業	0	0	0	
製剤技術伝承講習会事業	11,870,000	8,326,245	3,543,755	
製剤技師認定事業	1,560,000	1,592,631	−32,631	
製剤セミナー事業	7,975,928	7,952,114	23,814	
FG統括委員会事業	2,448,000	3,529,910	−1,081,910	
国際標準医薬分業推進事業	1,000,000	1,228,157	−228,157	
年会事業	49,677,612	41,696,787	7,980,825	
共通	11,618,500	4,877,901	6,740,599	
小計	98,067,841	94,281,728	3,786,113	
法人会計	12,139,838	9,668,368	2,471,470	
合計	110,207,679	103,950,096	6,257,583	

貸借対照表
2014年3月31日現在

公益社団法人日本薬剤学会　（単位：円）

科目	当年度	前年度	増　減
Ⅰ資産の部			
1．流動資産			
現金預金	44,042,764	41,071,163	2,971,601
現金	1,380	0	1,380
普通預金	7,430,874	6,792,323	638,551
郵振/会費	24,422,130	22,882,410	1,539,720
郵振/講習会	11,989,220	10,820,660	1,168,560
郵振/セミナー	199,160	575,770	−376,610
未収入金	0	5,815,280	−5,815,280
前払費用	2,406,006	1,449,641	956,365
仮払金	500,000	1,000,000	−500,000
流動資産合計	46,948,770	49,336,084	−2,387,314
2．固定資産			
(1)基本財産			
定期預金	20,000,000	20,000,000	0
基本財産合計	20,000,000	20,000,000	0
(2)特定資産			
積立預金(ﾀｹﾙｱﾔﾋｸﾞﾁ記念基金)	35,000,000	35,000,000	0
積立預金(創剤開発・研究賞積立金)	1,665,991	1,399,647	266,344
積立預金(学術集会基金)	7,900,000	0	7,900,000
特定資産合計	44,565,991	36,399,647	8,166,344
(3)その他固定資産			
什器備品	8,394	10,491	−2,097
差入保証金	100,000	100,000	0
その他固定資産合計	108,394	110,491	−2,097
固定資産合計	64,674,385	56,510,138	8,164,247
資産合計	111,623,155	105,846,222	5,776,933
Ⅱ負債の部			
1．流動負債			
未払費用	1,006,692	1,704,532	−697,840
前受金	30,000	100,000	−70,000
前受会費	18,692,000	18,476,000	216,000
預り金	199,109	137,919	61,190
仮受金	30,000	20,000	10,000
未払消費税等	800,000	800,000	0
流動負債合計	20,757,801	21,238,451	−480,650
負債合計	20,757,801	21,238,451	−480,650
Ⅲ正味財産の部			
1．指定正味財産			
指定正味財産合計	20,000,000	20,000,000	0
（うち基本財産への充当額）	(20,000,000)	(20,000,000)	(0)
2．一般正味財産	70,865,354	64,607,771	6,257,583
（うち特定資産への充当額）	(44,565,991)	(36,399,647)	(8,166,344)
正味財産合計	90,865,354	84,607,771	6,257,583
負債及び正味財産合計	111,623,155	105,846,222	5,776,933

正味財産増減計算書
2013年4月1日から2014年3月31日まで

公益社団法人日本薬剤学会　（単位:円）

科目	当年度	前年度	増減
Ⅰ 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1)経常収益			
基本財産運用益	216,000	9,827	206,173
基本財産受取利息	216,000	9,827	206,173
特定資産運用益	323,999	4,719	319,280
特定資産受取利息	323,999	4,719	319,280
受取会費	23,237,000	22,620,000	617,000
正会員	12,983,000	12,821,000	162,000
学生会員	1,614,000	1,639,000	−25,000
賛助会員	8,640,000	8,160,000	480,000
事業収益	86,035,455	65,230,359	20,805,096
学術集会・委員会等事業収益	80,721,500	60,165,000	20,556,500
参加費	36,928,000	37,820,000	−892,000
助成金・補助金	1,150,000	3,000,000	−1,850,000
寄付金・協賛金	18,963,500	5,300,000	13,663,500
セミナー共催金	6,480,000	4,140,000	2,340,000
講演要旨集等販売料	0	0	0
広告料	2,700,000	840,000	1,860,000
出展料	14,500,000	9,065,000	5,435,000
学会誌等出版事業収益	1,753,955	2,135,359	−381,404
購読料	867,510	676,116	191,394
投稿料・別刷料	429,700	779,600	−349,900
許諾料・使用料	203,485	218,063	−14,578
広告料	253,260	461,580	−208,320
学会賞等表彰事業収益	2,000,000	1,800,000	200,000
助成金・補助金	500,000	300,000	200,000
寄付金・協賛金	1,500,000	1,500,000	0
製剤技師認定事業収益	1,560,000	1,130,000	430,000
受験料	1,080,000	730,000	350,000
認定料	480,000	400,000	80,000
雑収益	395,225	307,986	87,239
雑収益	392,492	304,172	88,320
受取利息	2,733	3,814	−1,081
経常収益計	110,207,679	88,172,891	22,034,788
(2)経常費用			
事業費	94,281,728	69,861,965	24,419,764
給料手当	900,000	720,000	180,000
臨時雇入金	1,453,125	2,139,625	−686,500
会場費	14,526,035	17,023,514	−2,497,479
旅費交通費	6,289,614	3,053,805	3,235,809
会議費	5,395,412	2,674,624	2,720,788
関連行事費	10,283,545	7,834,110	2,449,435
賞状・賞牌・副賞費	3,267,822	2,752,412	515,410
通信運搬費	2,240,403	1,520,610	719,793
ウェブサイト管理費	2,533,845	1,490,528	1,043,317
消耗品費	1,019,113	1,738,634	−719,521
印刷製本費	15,810,427	8,870,394	6,940,033
貸借料	4,654,335	1,515,495	3,138,840
保管料	245,700	226,800	18,900
諸謝金	7,733,807	5,485,155	2,248,652
租税公課	31,400	500,000	−468,600
支払負担金	2,546,421	1,237,841	1,308,580
業務委託費	13,789,398	9,419,010	4,370,389
雑費	1,561,326	1,659,408	−98,082
管理費	9,668,368	9,524,851	143,517
給料手当	900,000	720,000	180,000
旅費交通費	281,510	281,040	470
会議費	1,608,434	2,053,731	−445,297
通信運搬費	1,081,730	1,040,710	41,020
消耗品費	261,582	224,344	37,238
減価償却費	2,097	30,651	−28,554
印刷製本費	406,359	460,609	−54,250
貸借料	289,800	289,800	0
租税公課	800,000	370,000	430,000
業務委託費	2,833,291	2,841,662	−8,371
公認会計士報酬	735,000	735,000	0
雑費	468,565	477,304	−8,739
経常費用計	103,950,096	79,386,816	24,563,280
当期経常増減額	6,257,583	8,786,075	−2,528,492
当期一般正味財産増減額	6,257,583	8,786,075	−2,528,492
一般正味財産期首残高	64,607,771	55,821,696	8,786,075
一般正味財産期末残高	70,865,354	64,607,771	6,257,583
Ⅱ 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	20,000,000	20,000,000	0
指定正味財産期末残高	20,000,000	20,000,000	0
Ⅲ 正味財産期末残高	90,865,354	84,607,771	6,257,583

財産目録
2014年3月31日現在

公益社団法人日本薬剤学会　　（単位：円）

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)				
	現金	現金	4月分家賃超過支払分戻り	1,380
	預金	普通預金		7,430,874
		三東UFJ/江戸川橋	運転資金として	4,514,065
		三東UFJ/江戸川橋(ｾﾐﾅｰ)	同上	2,221,165
		三住/大塚	同上	30,000
		三住信/本店	同上	665,644
		郵振/会費	同上	24,422,130
		郵振/講習会	同上	11,989,220
		郵振/製剤セミナー	同上	199,160
	前払費用	加盟団体年会費前払等	公益目的事業の前払分他	2,406,006
	仮払金	年会仮払	公益目的事業の仮払分	500,000
流動資産合計				46,948,770
(固定資産)				
基本財産			公益目的事業に必要なその他の活動の用	20,000,000
	定期預金		に供する財産であり、運用益を管理費に使用	20,000,000
		(定期)三住信/本店営業部		20,000,000
特定資産				44,565,991
	積立預金(ﾀｹﾙｱﾔﾋｸﾞﾁ記念基金)		公益目的保有財産であり、運用益を公益	35,000,000
		(定期)三住信/本店	目的事業(ﾋｸﾞﾁ記念各賞表彰事業)に使用	30,000,000
		郵振/講習会	同上	5,000,000
	積立預金(創剤開発・研究賞積立金)		公益目的事業(創剤開発・研究賞表彰事業)に	1,665,991
		(普通)三東UFJ/江戸川橋		1,665,991
	積立預金(学術集会基金)		公益目的保有財産であり、運用益を公益	7,900,000
		(普通)三東UFJ/江戸川橋	目的事業(年会事業)に使用	7,900,000
その他固定資産				108,394
	什器備品	ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾀｰ	法人の管理運営に供している資産	8,394
	差入保証金	事務所借室学会ｾﾝﾀｰﾋﾞﾙ	法人の管理運営に供している資産	100,000
固定資産合計				64,674,385
資産合計				111,623,155
(流動負債)				
	未払費用	印刷製本費・委員会開催費等	学会誌印刷製本費・広報委・編集委開催費	1,006,692
	前受金	FIP会長ﾊﾟｰﾃｨｰ参加費前受金	5/23FIP会長ﾊﾟｰﾃｨｰ参加費前受金	30,000
	前受会費	次年度以降会費	事業及び法人運営の前受分	18,692,000
	預り金	源泉所得税	法人の管理運営業務に係る未払分	199,109
	仮受金	郵振/会費，三東UFJ/江戸川橋等	不明入金等の仮受分	30,000
	未払消費税等	未払消費税等		800,000
流動負債合計				20,757,801
負債合計				20,757,801
正味財産				90,865,354

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針
(1)固定資産の減価償却
有形固定資産の減価償却は定額法によっている。
(2)消費税等の会計処理
消費税の会計処理は、税込み方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高
基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。 （単位：円）

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	20,000,000	0	0	20,000,000
小計	20,000,000	0	0	20,000,000
特定資産				
積立預金(ﾀｹﾙｱﾔﾋｸﾞﾁ記念基金)	35,000,000	0	0	35,000,000
積立預金(創剤開発・研究賞積立金)	1,399,647	1,500,000	1,233,656	1,665,991
積立預金(学術集会基金)	0	7,900,000	0	7,900,000
小計	36,399,647	9,400,000	1,233,656	44,565,991
合計	56,399,647	9,400,000	1,233,656	64,565,991

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳
基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。 （単位：円）

科目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
定期預金	20,000,000	(20,000,000)	(0)	(0)
小計	20,000,000	(20,000,000)	(0)	(0)
特定資産				
積立預金(ﾀｹﾙｱﾔﾋｸﾞﾁ記念基金)	35,000,000	(0)	(35,000,000)	(0)
積立預金(創剤開発・研究賞積立金)	1,665,991	(0)	(1,665,991)	(0)
積立預金(学術集会基金)	7,900,000	(0)	(7,900,000)	(0)
小計	44,565,991	(0)	(44,565,991)	(0)
合計	64,565,991	(20,000,000)	(44,565,991)	(0)

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高
固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。（単位：円）

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
什器備品	436,547	428,153	8,394
合計	436,547	428,153	8,394

5. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高
補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。 （単位：円）

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上
助成金						
Award Grant	(公財)永井記念薬学国際交流財団	0	500,000	500,000	0	注)
Conference Grant	(公財)永井記念薬学国際交流財団	0	1,000,000	1,000,000	0	注)
Conference Grant	(公財)永井記念薬学国際交流財団	0	150,000	150,000	0	注)
合計		0	1,650,000	1,650,000	0	

※注)いずれも当該年度内に目的たる支出が完了するため、貸借対照表上の記載はない。

附属明細書

1. 基本財産および特定資産の明細
「公益法人会計基準」(平成20年4月11日、平成21年10月16日改正内閣府公益認定等委員会)に定める附属明細書の記載上の留意点に従い、財務諸表の注記3および4に記載しているので、内容の記載を省略している。

2. 引当金の明細 （単位：円）

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		当期末残高
			目的使用	その他	
なし	0	0	0	0	0

以上

独立監査人の監査報告書

平成26年 5月8日

公益社団法人　日本薬剤学会
　会長　原島　秀吉　殿

馬目公認会計士事務所

公認会計士　馬目 利昭

＜財務諸表監査＞

私は、公益社団法人日本薬剤学会の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの平成25年度の貸借対照表及び正味財産増減計算書並びにその附属明細書並びに財務諸表に対する注記について監査し、併せて、貸借対照表内訳表及び正味財産増減計算書内訳表（以下、これらの監査の対象書類を「財務諸表等」という。）について監査を行った。

財務諸表等に対する理事者の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽の表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

私の責任は、私が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。私は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、私に財務諸表等に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表等の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、私の判断により、不正又は誤謬による財務諸表等の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、私は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表等の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、理事者が採用した会計方針及びその適用方法並びに理事者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表等の表示を検討することが含まれる。

私は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

私は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産及び正味財産増減の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

＜財産目録に対する意見＞

私は、公益社団法人日本薬剤学会の平成26年3月31日現在の平成25年度の財産目録（「貸借対照表科目」、「金額」及び「使用目的等」の欄に限る。以下同じ。）について監査を行った。

財産目録に対する理事者の責任

理事者の責任は、財産目録を、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠するとともに、公益認定関係書類と整合して作成することにある。

監査人の責任

私の責任は、財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているかについて意見を表明することにある。

財産目録に対する監査意見

私は、上記の財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているものと認める。

利害関係

公益社団法人日本薬剤学会と私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以　上

監査報告書

公益社団法人日本薬剤学会
会長　原島秀吉　　殿

2014年 5月 9日
公益社団法人日本薬剤学会
監事　中上博秋
監事　渡辺善照

私たちは、2013年4月1日から2014年3月31日までの2012年度における会計及び業務の監査を行い、次のとおり報告する。

1　監査の方法の概要

(1)　会計監査について、帳簿ならびに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて計算書類の正確性を検討した。

(2)　業務監査について、理事会およびその他の会議に出席し、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて業務執行の妥当性を検討した。

2　監査意見

(1)　収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表及び財産目録は、会計帳簿の記載金額と一致し、法人の収支および財産の状況を正しく示していると認める。

(2)　事業報告書の内容は真実であると認める。

(3)　理事の職務執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実はないと認める。

以上